

厚木市消防出初め式 清川車両がデビュー

今年の厚木市消防出初め式は1月8日(日)、荻野運動公園で行われました。消防職員187名、消防団344名、大規模災害サポート隊38名、自衛消防隊7名が整列。式典では永年の勤務や功績による県知事表彰、消防団長表彰が行われました。



隊員が避難者への救出に声を掛けました。



消防署演習では、地震で建物に突っ込んだバスから負傷者を救出した後は、隊員がロープで一気に降下。その速さに「写真撮れなかった」と叫ぶ観客あり。最後は消防団による七色の一斉放水。放水中に、突然現れたこの人物は?!?!後で聞いたら、ボディビルをやっている消防職員だったか。



市民の命と財産を守るために、日々身体を鍛え、訓練を重ねて技術を磨く消防の皆さんに感謝しつつ、今年も安全を願うものです。

その後、厚木市古式消防保存会のまとい振込みとはしご乗り。車両分列行進では、消防の広域化で昨年4月にできた清川分署のポンプ車と救急車が出初め式デビューで



怪我人を重症度に応じて治療の優先度を決定し選別するトリアージも。建物屋上からはしご車であゆみ口ちゃんを救出しました。避難者



市民の命と財産を守るために、日々身体を鍛え、訓練を重ねて技術を磨く消防の皆さんに感謝しつつ、今年も安全を願うものです。

3. 子どもと教育の危機を打開するために

- ① 教職員が児童生徒に向き合う時間を確保できるよう、少人数学級を小中学校の全学年で実施すること。また、国に対して拡大するよう求めること。
- ② 小中学校のいじめ問題について、迅速な解決を図るとともに、いじめられる側だけでなく、いじめている児童・生徒の心に寄り添い、問題解決を図ること。
- ③ 教職員の多忙化を解消するよう努めること。
- ④ 子どもたちが読書に親しめる環境をつくるため、学校図書館の充実を図ること。
- ⑤ 学童保育については希望者が全員入所できるように拡充を図ること。
- ⑥ 就学援助制度の新入学学用品費については、中学校入学前支給に加え、小学校入学前にも支給できるようにすること。
- ⑦ 通学路の安全確保のため、交通安全施設の充実に努めること。
- ⑧ 中央図書館については引き続き市直管で行うこと。

4. いつまでも住み続けられるまちづくりを

- ① 市内全域でのバリアフリー化を進めること。
- ② 中心市街地、特に一番街の路上看板ゼロに向け、対策を講じること。
- ③ 高齢化に伴い、福祉の観点でミニバス、デマンド交通等を導入すること。
- ④ 自然エネルギー(再生可能エネルギー)発電の推進を引き続き図ること。
- ⑤ 原子力発電から自然エネルギーへの転換をするよう国に求めること。
- ⑥ 厚木市文化会館の利用料については、市内団体への減免制度をつくること。
- ⑦ 市内公共施設で、磁気ループを始めとした難聴者対策を講じること。
- ⑧ 歩行者の安全確保のために、歩道の整備を推進すること。
- ⑨ 地域循環型経済を推進するための効果的

な対策を講じること。

- ⑩ 高齢化が進む市内各地域に対して、買い物支援等具体的な施策を進めること。

5. 不況と雇用不安から市民の暮らしと営業を守る対策を

- ① 中小企業の実態を把握し、支援策を充実すること。
- ② 厚木市中小企業振興条例を制定すること。
- ③ 商店リニューアル助成制度の創設を行うこと。
- ④ 公契約制度を創設するよう、国に求めること。
- ⑤ 所得税法第58条を廃止するよう、国に求めること。
- ⑥ 消費税10%への増税を中止するよう、国に求めること。

6. 防災対策の充実を

- ① 共同住宅、事業所に対する耐震改修工事への助成制度を創設すること。
- ② 小中学校へ災害用井戸を設置すること。
- ③ 感震ブレーカー設置補助制度を早期に実施すること。
- ④ 常備消防力の強化及び消防団の充実を図ること。

7. 農業を守り発展させるために

- ① 市内における食料自給率向上のため、地元農産物のさらなる消費拡大策を講じること。また、国に対して、食料自給率の向上を求めること。
- ② 公共施設の給食等で一層の地産地消を進めること。
- ③ 農業後継者、新規就農者の育成を図り、都市農業の活性化に努めること。

8. 市民本位の行財政改革を進め、市民に開かれた市政を

- ① 市民サービス向上のため、業務実態に合わせた人員を十分に確保すること。
- ② 相談しやすい環境整備に努め、職員の心身の健康管理の充実を図ること。
- ③ 市の公共施設については、不安定雇用や官製ワーキングプアを助長するような指定管理者制度や業務委託の見直しを行うこと。

地域包括ケア市民講演会

1月23日(月) 13:30~16:20
厚木市文化会館大ホール

《講演》
上野千鶴子氏「おひとりさまの最期」
小笠原文雄氏「一人暮らしは明日の我が身〜最期まで家で暮らしたい〜」